



決意 輝跡想動(きせきそうどう)

校長 小林 理人

新年あけましておめでとうございます。凜とした空気に新春の陽ざしが温かく感じる穏やかなお正月を迎えました。突然の降雪やオミクロン株による感染者数の急増など、驚くことや心配なことはありましたが、昨年度のような急激な社会の変化もなく、年末年始恒例のイベントも感染症対策を講じながら開催されました。皆様はどのようなお正月をお過ごしになったのでしょうか。

お正月の楽しみのひとつに年賀状があります。今年も友人や教え子、お世話になった皆様から年賀状をいただきました。私も毎年、年賀状に近況や新年の想いなどを書いて送ります。そして、その年賀状には6年生が創った四字熟語を年頭の決意として記します。その年の6年生が学校のリーダーとして創った言葉が自分の姿や想いと重なるからです。今年も6年生が運動会で披露する二松ソーランに込めた想いを表した「輝跡想動」という四字熟語を記しました。

6年生が運動会で披露する二松ソーランは15年以上続く本校の伝統の一つです。藍染の法被をまとい真剣に踊る姿は、見ている人の心に強く語りかけるものがあります。そして、在校生がその雄姿に憧れ、それを演じることを目標に日々の学習や行事など様々な活動に目的をもって取り組みます。毎年繰り返される二小の伝統ですが、二松ソーランに込める想いや言葉は毎年変わります。その年の6年生が意識していることや、伝えたいことを四字熟語にしているからです。

今年度の運動会は感染予防対策を講じた実施となったことから、学年演技と短距離走を中心とした体育学習発表会として実施しました。6年生は、その社会状況やリーダーとして過ごしている学校生活の中で感じている想いをもとに二松ソーランを通して伝えたいメッセージを考えました。そして、伝えたいメッセージを4つの漢字を組み合わせ「輝跡想動」という四字熟語をつくりました。また、ソーランリーダーの子供たちからこの言葉に込めた想いについて以下のような説明がありました。

「輝跡」・みんなの個性、自分らしさを二小の歴史に刻みたい。

「想動」・在校生の心に残る演技をしたい。そして、見ている人の心を動かす演技をしてコロナ禍の不安を吹き飛ばしたい。

私は、社会の状況や課題を子供なりに捉え、それに向き合う姿勢を二小のリーダーらしい言葉で表現した素敵な四字熟語だと思いました。そして、6年生の二小への想いを受け止め、「輝跡想動」という言葉を以下のような私の決意として年賀状に記しました。

○来年度から始まる新しい学校づくりの工事に向けて、一人一人の持っている力や個性を活かして、二小の良さや伝統を未来につなぐ準備をしたい。(輝跡)

○コロナ禍の生活が続く中、できないことや不自由な事ばかりに気を取られるのではなく、今できることを精一杯行い、地域や保護者の皆様の力になりたい。(想動)

6年生が「輝跡想動」の言葉に込めた二小への想いや前向きな気持ちを国立二小の決意とし、子供たち、教職員と共に学校づくりを進めていきます。本年もよろしくお願いいたします。

登校時の安全を支えてくださっている皆様を紹介しします(裏面をご覧ください)

今年も、登校時の見守りや車止めの馬出し等でお世話になっている地域の皆様を紹介させていただきます。コロナ禍により集団登校ができない中、子供たちが安心して登校することができるのは、保護者や地域の皆様の見守りやご支援があるからです。

子供たちの安全を支えていただいている保護者や地域の皆様に心から感謝申し上げます。